

北朝鮮ルートの遮断で上昇する覚せい剤の末端価格

2006年7月6日(木)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～要 旨～

覚せい剤の密売価格は、取引が行われる地域や時期、1回に取引される量、その取引関係が継続的であるかどうかなどによって大きな開きが生じるため一概には比較できないが、警察庁が1982年に全国調査を行った際には、覚せい剤の1回使用分(約0.03グラム)の平均価格が約5000円程度、1グラムでは17万円程度とかなりの高額で取引されていた。

90年代前半には、覚せい剤が品薄状態となったことから、1グラム20万円を超える金額で取引されることも珍しいことではなかったという。

それが、90年代後半になると、北朝鮮ルートで安価な覚せい剤が大量に密輸されるようになり、需給バランスが崩れた結果、日本国内の覚せい剤の末端価格は大幅に低下するようになった。97年に全国麻薬取締官事務所が行った実態調査では、1グラム当たりの取引価格は最低で9000円、最高でも6万円程度となっている。

しかし、最近では再び覚せい剤の末端価格が上昇する傾向にある。

海上保安庁が、北朝鮮籍のすべての船舶に立ち入り検査を実施するなど、監視体制を強めたことで北朝鮮ルートが遮断され、その結果、覚せい剤が品薄となってきたのだ。需要の拡大に供給が追いつかなくなり、国内の末端価格は急上昇している。

2003年4月時点の末端価格は、1グラムあたり3000円から4000円程度であったが、2003年の秋口以降は1グラムあたり1万5000円から2万円程度の高値で推移しているという。

北朝鮮ルートが遮断された結果、最近では、それに代わってフィリピンやマレーシア、カナダなどを仕出し地として覚せい剤を密輸入するケースが増えつつある。